

平成28年度第1回 七尾市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成28年11月25日（金）午後4時から4時50分

II 場 所 七尾市役所5階 災害対策本部室

III 出席者

【構成員】七尾市長	不嶋 豊和
七尾市教育委員会	
委員長	山下 敏博
委員長職務代理	寺岡 卓子
委員	大森 重宜
委員	室屋 美佳
教育長	近江 一芳

【事務局ほか職員】

総務部長	岡野 崇
教育部長	浦辺 常寿
企画財政課長	福島 外哉
教育総務課長	石川 利樹
学校教育課長	阿部 斉
生涯学習スポーツ課長	伊藤 邦夫
中央図書館長	大谷内 好子
文化課長	吉野 広重
教育総務課課長補佐	横川 俊充
企画財政課課長補佐	松田 直樹
企画財政課専門員	三野 希

IV 議事

1 開会

2 議事

(1) 平成29年度重点目標及び主要事業について

(2) その他

3 閉会

V 議事の経過（要点のみ掲載）

◎**福島企画財政課長** それでは、ただいまから平成28年度第1回総合教育会議を開催いたします。まず初めに、不嶋市長から、ごあいさつをお願いいたします。

◎**不嶋市長** 本日は、総合教育会議にお集まりいただき、本当にありがとうございます

ます。ご案内のとおり、昨年6月に「地方教育行政組織及び運営に関する法律」の改正施行を受けまして、この総合教育会議を設立させていただきました。今年の2月には、委員の皆様にご苦勞をおかけして「七尾市教育大綱」を策定させていただいたところでもあります。この大綱の基本理念であります「～七尾に誇りと愛着を持ち、輝く未来を拓く人づくり～」のように、七尾に暮らす子供から大人までが、しっかりと人づくりを進めていくことが大切だと思っております。委員の皆様のご協力をいただきたいと思います。最近の教育行政をめぐる状況でありますけれども、学校施設では、いよいよ来年4月に七尾中学校と中島中学校がスタートいたします。工事も順調に進んでいるようでございます。また、懸案でありました徳田小学校と高階小学校が統合するという事で、平成30年4月からは朝日小学校として新設されます。今後、議会で条例改正等を進めさせていただく段取りとなっております。体育施設に関しては、城山体育館の耐震化等の工事を行い、文化施設については、博物館の整備、七尾城跡の整備にも着手していきたい、という思いでございます。現在、平成29年度の予算編成にとりかかっているところでもありますけれども、教育委員会そして委員の皆様とこれまで以上にしっかりと連携をとりながら、当市の教育行政がよりよい方向に進むようにしていきたいと思っております。この会議が有意義な機会となりますようお願いを申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

◎**福島企画財政課長** ありがとうございます。それでは引き続きまして、協議に入りたいと思っております。これ以降の進行につきましては、七尾市総合教育会議運営要綱に基づきまして、市長にお願いいたします。

◎**不嶋市長** それでは進めさせていただきます。協議事項に入る前に、昨年6月に総合教育会議を立ち上げてから約1年半が経過し、これまでの教育行政について委員の方の思いを、端的にお一方ずつお話しいただければありがたいと思っております。

◎**山下教育委員長** 先般、教育委員会事務局から七尾市教育大綱の体系をいただきました。石川県には教育振興基本計画という冊子があり、教育大綱はこの基本計画と以前からある振興ビジョンにのっとった形で作られていると思っております。内容は各学校や先生方に下りていくのだろうと思っておりますが、その内容は人の話や書類で理解できるものではなく、中身を悟ることが大切であり、悟るためには体験することが大きなポイントではないかと思っております。もうすぐ七尾市も新しい教育委員会制度になって、市長の教育行政に対する責任も明確化されますので、ぜひ、体験プログラムを策定していただくことをお願いしたい。もう一点、先ほどご挨拶にもありましたように、学校は統廃合が進み、学校数は減っていますので、公務が忙しいとは思いますが、市長にはぜひ各学校を訪問していただいて、学校の状況を見て、意見・悩み事を聴いたりして、行政に活かしていただきたい。

◎**寺岡教育委員長職務代理** 先日、東日本の市町教育委員会研究協議におかれまして七尾市が小・中・高連携の英語教育について発表されました。その中で、私たちは当たり前のように小・中・高連携を頑張っているな、これからも力を入れなくては、と思っていたのですが、その発表を聞いた全国の方から、「七尾市っ

てすごいね」「私たちのところでできるかしら」と言った声は何気なく聞こえてきました。それを聞いて、自分達が子供達のために一生懸命やっていることを当たり前のようになっていましたが、七尾の教育の足元を作るために七尾市ならではの取組みになっているんだと感じました。また、先日おもしろいデータを耳にしました。20代の若者に結婚願望がない、その中で、結婚願望がある人は小学校までに家族といろいろな経験した子だという内容でした。外出するだけでなく、自然体験や日頃のコミュニケーション等が、将来結婚願望をもつことに繋がるといふことで、先ほどの山下委員長の意見とも重なりますが、いろんな体験をさせることが大切であって、その根底にあるのは家庭教育だと思っています。金沢市でも家庭教育に力を入れると聞きましたが、七尾でももっともっと家庭の方に耳を傾けてもらえるような、参加してもらえるような市になっていけばいいなと思います。

◎大森教育委員 先日、サッカーの鵬学園が県大会で優勝し全国大会出場を決めました。このことについて、七尾がいかに関与したかについて、切り口がとても重要だと考えています。というのは、七尾のサッカー場を作るにあたり、富山第一高校、星稜高校の監督さんが随分七尾に来られていろいろ意見をされた、という事です。そんな事もあってあのように素晴らしいサッカー場が完成したわけですが、これらの高校と一緒にグループで練習したり、またユニオンという全国の大学生が七尾に集まり、練習しています。おかげさまで星稜大学は北信越大会に全勝しインカレへ出場することになりましたけれども、これはまさに七尾にサッカー場ができたことによるものです。競技場ができるだけでなく、交流がちゃんとできるか、その施設をちゃんと活用できるかどうか重要だと思いますが、それがきちんとできているという事をもっと発信していただけたらと思います。スポーツの勝敗だけの話でなく、例えば七尾城についても単に観光スポットとして観光客を呼ぶだけでなく、もう少し広げることを考えていかなければならないと思います。結果的に何が生まれるかは、化学反応であり見えないところではありますが、少なくともサッカー場ができたことにより北陸のスポーツ熱は高まっていますし、和倉のマラソン大会や東洋大学のマラソン合宿の定着等、我々の誇りになるような点が沢山あるので、もう少し市民にわかるような展開を期待します。

◎室屋教育委員 昨日のテレビで、ある俳優が埼玉県のいいところを尋ねられ、思いつかずに「何もないのいいところ」と適当に答えてしまったというエピソードを話していました。私は、市民のねがい推進協議会にも属しており、今年9月に七尾で行われた全国大会では、「まちづくりはひとづくり」というテーマで開催されました。教育大綱にもひとづくりと謳われていますように、お金も大事ですが人がいないと何も動けないし、結局人が大事なのだと感じました。全国大会の際に、七尾の好きな所を子供達に書いてもらったしおりを来場者に配ったところ、こんな手作りのプレゼントをもらった全国大会は初めてで感動した、という声をいただきました。私自身も、子供達のように七尾が大好きという気持ちを発信していきたいと思った出来事でした。

◎**近江教育長** これまでいろいろな事業を進めてきましたが、土曜授業の取組み、それから教育委員会中心で行っている英語力向上推進授業、この二つの取組内容を広く市民の方や、保護者の方に聞いていただきました。ご理解いただくとともに、さらに推進してもらいたいとの強い声も聞きました。特に、土曜授業においては、各小学校8～10回として活用を図ってもらっていますが、地域の方が学校を支援する体制が整ってきており、学校や地域が一体となった取組みがどんどん進んできています。拠点校としてやっている事を市全体に広げていきたいと考えており、できるだけ地域格差のない取組みを進めていきたいと思えます。また、入学時や小学校1、2年生において、いろいろな課題を抱えているケースが学校現場で見られます。教育委員会の枠を超えて、子育て支援課や専門家と連携しながら、幼保小連携により就学前から親御さんの悩みに寄り添う等、新たな教育環境づくりに取り組んでいかなければならないと感じている。そうすれば、教育現場でもより課題が減り、学力向上や本来の子供達の育成に力を注ぐことができるのではないかと考えます。

◎**不嶋市長** 山下委員長からご意見ありました、体験プログラムについては、市長としては知識を持ち合わせていないので、教育委員会や学校で考えてもらい、予算要求等を通してあげていただきたいと思います。百聞は一見にしかずというもの、学校は百聞を広げる場でもあります。ノウハウだけを教えるのではなく、読みこなして体験して身に着ける、といったまさに教育委員会や先生方による指導をお願いしたいと思います。できるだけ時間を作り、学校現場へも足を運べるようにできればと思います。英語教育について、七尾は結構進んでいるとの事ですが、先日、金沢でふるさと創生の全国市長会議があり、そこである市長の意見を聴きました。子供が英語を身に着けると、世界へ羽ばたいて行って七尾から離れてしまうという心配をしていましたが、子供の頃から英語を身に着けて、生まれ育った地域が外国人とコミュニケーションがとれる場であれば、子供達は帰ってくるという事例発表でありました。自分のふるさとが、自分の学んだ英語を活かして仕事ができ、活躍する場にまで高まれば、どんどん人を呼び込む形で帰ってくるという意見を聴き、なるほどと思いました。大森委員からもご意見があったように、どのような化学反応が生まれるかはわかりませんが、いい大学へ入るためのノウハウとしての英語でなく、七尾の活性化につながる英語教育であるならば大変良いと感じました。結婚願望をもつ子に育つためのご意見ですが、これは、ワークライフバランス、子供と触れ合う時間をもうける働き方への変革もあるといいのかと思いますし、担当部署に指示しながら全市民的な運動にしないではいけないと考えています。鵬学園高校サッカー部については、本当に良い化学反応を起こしてくれたと喜んでます。サッカー場が七尾にある事で、交流するグループが切磋琢磨してくれたらいいなと思います。サッカー場の芝が劣化している問題がありまして、この改修経費として2億円を準備させていただきました。七尾へサッカー練習に来た若者が、七尾を気に入って、結婚して家庭をもち、その子供もまたサッカー場へ来て練習し、祖父母が応援に来るといった嬉しい事が

増えれば、決して高い経費ではないと思いますし、そんな広がりも期待したいと考えます。七尾城も、観光の目玉に留まらず、物語を掘り起こして調査し、市民に伝えることで心の中に止まるようになっていけば、人が来て経済的に潤うだけでなく、市民の皆さんが誇りに思える、そんな取組みにしていきたいと思います。

◎**近江教育長** 子育て基金について、具体的に話していただけることがあればお願いいたします。

◎**岡野総務部長** 私からご説明させていただきます。仮称でございますが、「子育て基金」としまして、一定額を積み立て、一定の期間で市民の皆さんに見える形で財源を手当てしていくものです。地域での子育て支援や、里山里海や文化をしっかりと伝えていける地域での支え合いによる取組み、例えば、町の先生のような取組みですとか、地域の安全・安心につながる取組み、さらに地域で婚活事業に取り組むといったことにも支援できるよう、来年度当初予算に向けて庁内で研究しているところであります。

◎**不嶋市長** 地域の先生を学校のカリキュラムに組み込むことは難しいのだろうと思いますが、例えば地域の祭りを地域づくり協議会の人が子供に教える際に報酬を用意するとか、子供の世話をする団体も少なくなりましたが、そんな団体を再整理して夏休みに体験プログラムをして経験を豊かにするとか、いろいろ考えられると思います。例えば、七尾市と長野県飯山市の子供が互いの市を訪れ、その地独特の経験をする交流は七尾市のPRにもなりますし、学校では難しい取組みだと思います。そのような取組みに頑張る地域に対して積極的に支援していこう、という主旨の基金を考えています。また、幼保小連携については、昔から厚労省と文科省の壁があり、例えば空き教室の放課後児童クラブへの活用等、なかなか難しいまま現在に至っていることは問題だと思っています。

◎**浦辺教育部長** 現在、子育て支援課と連携して進めております、高階小学校での学童保育の事例について報告させていただきたい。

◎**石川教育総務課長** 高階小学校は、平成30年4月に朝日小学校となりますので、残り1年間となるわけですが、平成29年度は1年間のみ複式学級が一次的に解消され、普通教室が5教室から6教室となります。現在、普通教室を放課後児童クラブとして使っているのですが、そこを普通教室に戻していただき、放課後児童クラブは学校内に残すという形で、受託者の地区社会福祉協議会、子育て支援課と準備を進めているところです。

◎**福島企画財政課長** 予算の話も少し出しましたが、平成29年度の教育委員会重点目標及び主要事業について、教育部長から説明をお願いしたいと思います。

◎**浦辺教育部長** 七尾市教育大綱の基本理念をしっかりと認識し、教育委員会として取組みを着実に進めてまいりたいと考えております。

◎**不嶋市長** その他、何かご意見はございませんか。

◎**山下教育長** 最近、学生が地域に入っているフィールドワークがよくあります。市として、定住交流人口の拡大を大きな柱に掲げていると思いますが、私の住む地域でも大学生に祭りの手伝いに来てもらったりしています。中にはいいところ

だからここに来て住みたいという声も聞かれます。星稜大学でも実施しているようで、大学で経費をみるところもあるとは思いますが、個人負担が大きいということを知りますので、実態を調査して学生を呼び込む取り組みとしてフィールドワークに力を入れてもらえればと思います。

◎**福島企画財政課長** 七尾市ではいくつかの大学と連携協定を結んでおり、その中でCOC+のような場においていろいろな提案がされております。七尾市としても積極的に取り組んでいきたいと思っておりますし、七尾を気に入って、住みたいとの意向が聞かれれば、空き家バンクの紹介等、支援する取り組みも実施しているところがございます。

◎**不嶋市長** 学生に地域課題を掘り起こしてもらい解決策を考えてもらうことや、祭りの人手不足解消など、学生のフィールドワークには地域としても一石二鳥な面があります。しかし、活動費が足りないことや、地域が受け入れるかどうかの問題もありますので、地域づくり協議会が関わりをもつようなことで「地域づくり基金」として支援できればと考えています。

◎**大森教育委員** 私の星稜大学からも年間延べ300人くらいが七尾に宿泊しています。七尾在住の私に、「七尾ではどんなことができますか」と問いかけられて、返答に悩むことも実は少なくありません。和倉温泉は確かに魅力的なのですが、学生の呼び込みに必要なのは、宿泊施設があることと、プログラムが揃っていることです。七尾独自の教育プログラムを整理することで、もっと人を呼び込むことができると思います。また、祭りについては、中島地域にはゆいの制度がありますから、地域外の人を受け入れるのが上手だと思います。ただ、下手に学生が入っていくと、地域によっては助っ人が地域を壊しかねないこともあります。全国的にトラブルも耳にしますし、気を付けながらやっていく必要があると思います。

◎**不嶋市長** 七尾独自のプログラムというご提案がありまして、少し勉強しなくてはいけないと思いますが、大学コンソーシアム石川の中で、単位認定のできる講座が用意されておりまして、例えば七尾をフィールドとした3泊4日等の日程で地域防災や見守りの研究するプログラムにも結構学生が来ているようです。地域にとっても、受け入れを進めなくちゃいけないと考えるインセンティブになっているようですし、受け入れる地域の体制が大事だと思います。このような取り組みについても、例えば地域づくり協議会で何ができるかを考えていただき、地域発として提案されれば、基金も有効に使ってもらえるのではないかと思います。よりよい方向に進めていけるように、共に頑張りましょうということでもよろしくお願いいたします。

◎**福島企画財政課長** 市長、委員の皆様、ありがとうございました。委員の皆様からは大変貴重な意見を聴かせていただきました。総合教育会議の事務局であります企画財政課と教育委員会との連携を密にしながら、予算編成を含め今後の事務を進めさせていただきたいと思っております。以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

申し上げます。